

先日(130214)「**ルリビタキ**」を紹介したのですが、撮影個体が**メス**か**若いオス**でしたので、青いのは「**尾羽**」だけでした。

<http://www.pref.osaka.jp/attach/15501/00099022/130214ruri.pdf>

「**青いオス**がいるのであれば、やはりそちらも撮影して登載すべき」という、厳しい?ご意見をいただきましたので、昨日(130217)再び**岩湧山系**の林道を歩いてきました!

ラッキーなことに、歩き始めてしばらくすると、まず最初のグループ(2~3羽のルリビタキ)に出会いました

その中に**青色**個体もいたのですが、林内に飛び去ったきり、いっこうに戻っては来ませんでしたので、仕方なく先へ進むことにしました。

ちょうど昼頃になって、次のグループ(やはり2~3羽)に出会いました。

いました!

今度の**青色**個体は溪流を行ったり来たりしていますので、じっくり腰を据えて待ち構えれば何とか撮影できそうです。

そして...

次ページからの写真がその**成果**です。

1時間ほどかけて撮影した写真の中から、比較的ピントの合っているものを選びました。

(**写真** ~ :オス(いずれも同一個体) **写真** :メス or 若いオス)

撮影可能エリアに姿を現しても、頻繁に移動を繰り返しながら15秒もすれば遠くへ行ってしまう、再びこのエリアに戻ってくるのは数分経ってからですので、その間、寒さに震えながらじっと待っていたのです。これを1時間ほど繰り返しました...

さて、今回のテーマ「**ルリビタキ**」

冬、沢沿いの林道を歩いていると、道路脇のやぶなどから出てきたり、溪流の水面近くを小刻みに移動している姿を見かけます。

「**オオルリ**」、「**コルリ**」とあわせて「**瑠璃三鳥**」と呼んでいますが、その中でも「**ルリビタキ**」は比較的警戒心も弱いようで、近距離での撮影のチャンスも多いと言えます。

さらに、「**オオルリ**」、「**コルリ**」のオスが、生まれた年の秋には体のかなりの部分が青い羽毛に生え替わるのに対して、ルリビタキは2年目の秋の換羽でも、まだ青くはならないようです。

つまり、オスはメスと同じ茶色い羽色(どちらも尾羽だけは青い)のまま、2年あまりを過ごすことになるのですが、小鳥の短い寿命を考えれば、青くなれないまま命を失う個体も結構いるのではないかと、思えば切ないですね...

しかし...

これはメスのふりをして強いオスのなわばりに侵入し、こっそりと本物のメスに近づこうという作戦なのかも知れません...(憶測ですが)









